

令和 1 年 8 月 24 日に実施しました豊川市男女共同参画協働型事業 男性限定講座
について、下記のとおり報告します。

講座名	男性限定 自分と相手を尊重した、人間関係づくり講座 ～カッコイイって何?～
場所	豊川市社会福祉協議会 ウィズ豊川 2階 視聴覚室
日時	令和 1 年 8 月 24 日 (土曜日) 10時 ~ 15時
人数	男性のみ 15人
講師	濱田智崇 京都橘大学健康科学部心理学科准教授 カウンセリングオフィス天満橋 (「男」悩みホットライン) 代表
会場設定	昼食時や意見交換で使う場所として、後方に島形式で2か所設置 講義用に円形にテーブルを配置 セルフサービスコーナー (茶菓子) を設置
業概要 スケジュール	10:00~11:00 講義 男性講座の基礎知識 11:00~11:10 休憩 11:00~12:00 お見合い方式の自己紹介 12:00~13:00 昼食 13:00~14:00 ワークショップ 「女性と水夫」 ひっくり返しバージョン「男性と女性乗組員」 14:00~14:10 休憩 14:10~14:50 話し合い 「かっこいいとは」での話し合い 14:50~15:00 質問タイム、終了 アンケート記入
受講者の 様子	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介はお題を決め 「好きな食べ物」「自慢すること」「今、気になっていること」などで3分間。お互いに話し合う事で打ち解けた。 今回は、若い人参加者が多く世代交代があった。 高校生の参加者1名。 例年に比べ若い人が多いので、昼食時の話す話題の内容が今風になっていた。 講座のやり方が講義中心と考えていた人は、自己紹介やワークショップ形式に戸惑いがあった。 お疲れ気味の参加者もいた。 話し合いでは、女性に対する価値観でお互いの意見対立があった。 ワークショップの時に、ユーモアを交えて話し笑いを誘う場面があった。 質問が少なく、発言者が偏っている。 話すことに慣れていない。
講座内の特色	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップで、前回もやった女性と水夫のひっくり返しバージョン「男性と女性乗組員」を行った。 最初は前回と同じバージョンでやったが、ひっくり返しバージョンでは登場人物の性別を変えることで、ジェンダー視点が変わり話し合いが盛り上がった。 参加者同士の話し合いの時間を増やす事で、意見交換や気づきがあった。

過去5回毎年男性講座を開催してきましたが、今回ほど、男性講座の必要性を特に強く感じたことはありません。濱田先生から学んできたことをなかなか自分のものできないという実態には、男女共同参画社会推進を旗印に掲げている豊川共生ネットみらいは、暗澹たる思いがしております。

例えば、講座でよく見受けられたのは、自分の思いを言語化できないこと。濱田先生が強調しておられる『男性性』がしっかりと学習できていない印象です。これは、男性自身が自分の本音に気付いていないからです。男性という鎧を着ることは、自分の本音を隠すこと、すなわち自分自身から逃げること・目をそらすことに有効ですが、自己尊重から生まれるはずの自立とは正反対の方向です。こうした感覚のマヒ状態が他人を支配しようとする意識につながります。社会問題となっている、DV・セクハラ・パワハラは、こういう『男性性』の特質が社会の中で広がったと考えることができます。

ジェンダーを最重視している豊川共生ネットみらいは、特にDV加害者が男性に多いことに注目しています。なぜ、妻のみをターゲットにして支配しようとするのか。自分の弱さを認めたくない、自分には弱さというものがない、という男性自身の自己認識が心の奥底に潜んでいるのではないのでしょうか。支配することで弱さを隠し、自分のメンツを守っているのではないのでしょうか。

平成30年の自殺者は37年ぶりに3万人を割ったそうですが、それでも2万450人と少なくありません。女性より男性が多くを占めています。社会を動かしているのが男性であるとする男性社会にあって、これも、本音を言えない・言わないという男性の自己認識のために起きている社会現象です。また、今起きている種々のハラスメントの背後にも、こうした男性の自己認識のゆがみが垣間見られます。

自己尊重をした上で他者を尊重することを学び、社会とのつながり方を学ぶ場として、男性限定講座の継続的開催は重要だと、豊川共生ネットみらいは考えています。

豊川市では豊川共生ネットみらいが2015年から男性限定講座（2016年度から豊川市男女共同参画協働型事業）を開設し、それと同時に男だけのしゃべり場を毎月開催するようになりました。豊川共生ネットみらいでは先駆的な事業だと自負しています。今回の受講者は昨年8名から15名に増加しました。また、アンケート調査から男だけのしゃべり場に参加したいと回答した受講生が8人いました。豊川共生ネットみらいは意識改革し学んだことを自己発信する力に期待しています。

因みに、浜松市では以前から男性悩み相談をしていましたが、豊川市の影響を受けて2年前から濱田先生の講座を始めています。

政令指定都市で唯一男性悩み相談をしていない仙台市が、各自治体で初めて男性悩み相談の開催に動き、加害者支援プログラムも実施しています。

こうした世の中の動きと連動し、豊川共生ネットみらいは、男性悩み相談室の設置を考えています。

企画運営して
の感想